

【資料】

明星大学創設の意図と教育理念(2)

—創設第1年度、1964(昭和39)年度の資料—

【資料1—①】

『明星大学 理工学部 =1964=』 (「大学案内」・学生募集パンフレット、項目抜粋)

表紙

明星大学

理工学部

物理学科

化学科

機械工学科

電気工学科

土木工学科

=1964=

めいせい
明星学苑の沿革

本学は、大正十二年老後の社会奉仕のため故星野鏡三郎翁の寄附により、明星実務学校として創設されたのがその前身である。

大正十五年、同校理事児玉九十校長に就任し、爾来四十有余年、一貫した私学教育制度のもとに、学苑教育の理念を具現する場として、光輝ある学風を確立し校運の隆昌に努めてきた。その間、昭和二年財団法人明星中学校と組織を変更し、また戦後の学制改革にそって、新たに昭和二十二年より逐次、明星中学校、明星高等学校、明星幼稚園、明星小学校を開設し、総合学苑としての体制を整えてきた。

昭和二十六年、私学法の施行に伴い、学校法人明星学苑と組織を変更し今日に至っているが、

本年は学苑創立四十周年の記念の年を迎えるに当り、私学独自の一貫教育の完成をめざし、将来の総合大学の一環として、まず国家的要請にそうべく、さらに明星大学(四年制)理工学部(物理、化学、機械、電気、土木の五学科)を新設し、昭和三十九年四月より開学の運びとなっている。

めいせい
明星大学理工学部設立にあたって

明星学苑理事長 児玉 九十
明星大学学長

第二次世界大戦の結果、わが日本はいまだかつて経験したことのない敗戦に遭遇し、一億の日本国民は資源乏しき四つのせまい島で生きて行かねばならぬ運命となりました。私は教育者の立場から、国家再建のため戦後の日本教育を如何にすべきかについて真剣に考え抜いた結果、戦後の日本の教育の根幹は「道德教育と科学技術教育」でなくてはならぬという結論に到達したしたのであります。

申し上げるまでもなく、帝国主義の時代は第二次世界大戦をもって完全に終りを告げ、今まさに世界各国は自国の産業振興に全力を傾け、他国と覇を争わんとする商工業競争中心の時代にはいっております。原料を輸入し、これを加工して輸出することを産業の中軸とする日本としては、これらの競争に堪え国の繁栄を得んとすれば、高

度の科学を中心とした、強い道義心とすぐれた技術によって、よりよき品を製造し、これを安価に売り出す以外に方途はないのであります。したがって、これに適する人材の育成が急務中の急務となっております。昨今人づくり問題が国家の方針としても叫ばれるようになったゆえんも、まさしくこの点からであると言ってよからうと思います。

文部省における中央教育審議会において、工業高校三年と工業短大二年とを結合した五ヶ年一貫の技術教育による中堅技術者養成を企画した、専科大学案の立案に私も微力ながら尽力致しましたのもそのためでありましたが、昭和32年西独フランクフルトにおける世界教育者会議に出席後の欧米視察において、各国の産業立国と教育との結合の強固さ、特に米国における産学協同(I・A・P又はI・L・P)の徹底的遂行の実情を見て、いっそう確信を強め帰朝後準備に着手、昭和36年4月から明星高等学校に従来の普通科の他に新しく工業科を併設し、専科大学実現への一步を踏み出しました。ところが、専科大学案は三度も国会に提出されたにもかかわらず、三回とも審議未了の上ついに廃案となり、明星学苑としては、工業短大・四年制大学のいずれを採るかの二者択一をせまられるに至ったのであります。

一方、昭和45年までの工学部出身者の不足は、現在の日本経済の伸び方をもってすれば約50万人という統計も発表され、他方、所得倍増政策による所得の伸展は、高校ならびに大学進学者の急増をもたらす大学入学難はますます激化の一途をたどり、本年高校入学者の卒業する昭和41年以後は、現状をもってすれば日本特有現象たる浪人の激増を見ることは火を見るよりも明らかなことでありますから、明星学苑としても四年制大学実現の急務たることを痛感し、如何なる困難をも克服し、これが実現をはかりたいと決意するに至った次第でございます。

大学出身者の不足は、工科系だけではなく自然科学系全体でありますから、数学・理科専攻者の不足もおびただしく、高校・中学の理数科教師の如きは補充困難のため、学校間で奪い合いといういまわしい状態も頻出してあります。

そこで明星大学においては、現代工業技術で最も要求されている数学・物理・化学の基礎学科との融合を図る点の考慮と、理数教師の養成との両点から、理科と結合した進み方を探ることとし、明星大学最初の学部としては、「物理学・化学・機械工学・電気工学・土木工学」

の五学科を内容とする理工学部として発足し、時代の要求に応ずることといたしました。

以上申し上げましたように、戦後の日本教育は道徳と科学技術教育を根幹とすべきであるという大前提に源を発しているのでありますから、明星大学は単なる学問技術の練磨をもって満足することなく、「科学する心を持った道義心の強い技術者」の養成を行い、「世界に信頼される日本人」たらしめようという、明星学苑建学の根本精神に徹底せんとする「人づくり大学」であることを重ねて強調したいと存じます。

本学の特色

○理想的教育環境

明星大学(理工学部)は東京都の郊外、日野市(国電中央線日野駅、京王線高幡駅)高幡の丘陵地にあつて、西に富士の霊峰を仰ぎ、東北には多摩川の清流を隔てて武蔵野平野を一望のもとにおさめる景勝の地である。本学はこの閑静にして陽光豊かな水気清き平和境に12万平方米の広大な校地を有する白亜の殿堂である。

交通路としては、京王帝都線新宿駅(より30分)と京王八王子駅(より10分)とを結ぶ高幡不動駅が一番近い。現在、高幡不動駅より多摩自然動物公園前駅までの路線延長工事(新宿駅より直通電車乗り入れ工事)も進み、近く完成の暁には動物公園前駅下車徒歩5分で正門に着き、交通も一段と便利になる。

○最新の施設と充実した設備

現在、本館(鉄筋四階建一部二階)6,650平方米の建設が、本年3月完成をめざして進んでいるが、電気・水道・通風・採光・暖房等の施設管理はもちろんのこと、基礎実験の設備の充実に特に意を用い、各専門学科の講義及び実験実習に必要な最新の機械器具・内外図書類を備え、日進月歩の学問技術の先端を進むよう計画されている。

○誇るべき教授陣

理工学部(五学科)の開設にあたっては、学界及び産業界の非常な共鳴をよび、学苑の40年にわたる教育経

験の実績に賛同された、著名な学者の方々の協力を得たので、私学として誇るべき教授スタッフで構成されている。国公立の学長・学部長を歴任された教授が相当数あるばかりでなく、産業界で指導的役割を果たされている方々にも参加いただき、また現在外国で研究中的の新鋭の方々も含まれているのは、本学の最も誇るべき特色の一つと信じている。

○一貫した教育方針

本学の開設は、総合学苑としての歴史と、学苑長の多年にわたる教育上の信念と体験とを中核とし、学苑教職員一体の教育理想を実現せんとする熱意と努力に加えて、学苑父兄卒業生の絶大なる協力と援助によるものである。

特にその教育方針は、学苑建学の精神たる、

- i) 物心一如・自他敬愛・万有生成発展の原理たる「和」の精神によって貫かれている。本学における教育と経営、学問と応用、教養と専門、教授と学生などの関係はいずれもこの根本精神に基づき、教育を深化徹底させ、「科学する心を持った道義心の強い世界に信頼される日本人」という人づくりをする覚悟である。
- ii) 人間自然の心を、森羅万象を教材として、誠の心に育てあげるのが真の教育だとの確信によって、本学ではあくまでも個性を尊重し、天分を伸展させ、人類の文化と平和に貢献せんとする人間育成を行う。
- iii) 従って教授と学生との相互の人格接触、ヒューマンタッチの教育の真髄に徹底するのは本学の特色である。

○産学協同と教育課程上の特色

「学問の成果を産業界へ、産業界の援助を学校へ」という産学協同は全世界の大学教育の新風潮で、将来の大学教育のあり方を示唆する重要な課題である。本学はこの趣旨に添って産学協同の成果をあげ、私学教育独自の特色を生かし、わが国及び世界の文化の発展に寄与せんとするものである。

また教育課程においては、

- i) 一般教育と専門教育との融合、相即的な研究と教育を中心とするが、
- ii) 内外における科学技術の飛躍的進歩の現実をみつめ、広く知識を吸収し表現するため特に外国語の習得を重視し、英独二ヶ国語にわたる相当時間を必修として課し、
- iii) また保健体育の時間を従来の大学基準より大幅に増加している。基礎学力、語学力、保健体育の重視は理工学部として他大学に類を見ない特色である。

【資料1—②】

昭和39年度開学 明星大学 理工学部推薦入学募集要項

1. 推薦入学制度

趣 旨 高等学校を卒業した者(39年3月卒業見込の者を含む)で学力人物共に優秀であり、出身高等学校長の推薦のあるものにつき、推薦書と調査書および面接により選考の上、入学を許可する。

推薦基準 高等学校在学中の成績が上位より3分の1以内にあり、人物健康など大学進学に適当と認められる者

2. 募集学部 学科		(募集人員)	(学士号)
理工学部 (四年制)	物 理 学 科	若干名	理学士
	化 学 科	若干名	理学士
	機械工学科	若干名	工学士
	電気工学科	若干名	工学士
	土木工学科	若干名	工学士

3. 出願期間

出願期間	2月1日(土)より3月10日(火)まで。
受付時間	日曜祝日を除き、午前9時より午後4時まで。
受付場所	東京都 府中市 栄町1丁目1番地

学校法人 明星学苑内
明星大学事務局入学係

4. 出願手続

- | | | |
|----------------------|---|----------------|
| (1) 出身高等学校長の推薦書 | } | 本学所定の用紙を用いること。 |
| (2) 入学願書(写真添付) | | |
| (3) 出身学校長調査書 | | |
| (4) 健康診断書 | | |
| (5) 卒業証明書(又は卒業見込証明書) | | |
| (6) 入学検定料 5,000円 | | |

以上の六つを一括して、出願期間中に上記の受付場所に、なるべく直接持参して提出し、受験票の交付を受けること。

○郵送の場合は、本学所定の封筒を使用し、必ず書留速達郵便とし、返信用封筒に自己の住所氏名を明記し、切手を貼付して同封のこと。

5. 選考方法

出身高等学校長の推薦書、調査書、健康診断書、及び面接による総合選考の上合格を決定する。

6. 面接日及び面接場所

- 3月12日(木)午前10時より
- 明星学苑本部(府中市)(裏表紙案内図参照)

7. 合格発表

- | | |
|----------|---|
| 1. 期 日 | 3月13日中に通知書を発送の予定。 |
| 2. 発表の方法 | 合格、不合格とも本人宛通知する。なお合格者には合格通知書および入学手続に必要な書類を同封送付する。 |

8. 入学手続き

手続期限 3月17日(火)午後4時まで。
上記期間中に、下記のものをとりそろえ、諸費用とともに納付し、入学手続を完了すること。
同期間中に手続きを完了しないものは、入学許可を取消す。

- (1) 合格通知書
- (2) 誓約書
- (3) 戸籍謄本
- (4) 卒業証明書(卒業見込証明書で受験した者のみ)
- (5) 入学金、授業料等

入 学 金	50,000円(入学時のみ納入)
授 業 料	42,000円(年額の二分の一)
施設拡充費	50,000円(年額の二分の一 第一年次のみ)
合計(入学時納入金)	142,000円

○ 但し実験実習費、教材費、暖房費等は実費を徴収する。

9. 注意事項

- (1) 一旦納入した諸費は返戻しない。
- (2) 受験票は面接の際、必ず持参すること。
- (3) 面接当日は昼食及び上履を持参のこと。
- (4) 合格発表などについての電話による問合せには一切応じない。
- (5) 不合格者は一般募集の入学試験を志願することが出来る。
(その場合入学検定料は再度納入の必要はないから受験票は必ず保存しておくこと。)

受験者の宿舍の斡旋

受験の際、宿舍の心当たりのない者には、本学で旅館の斡旋をするから、希望者は申込書(用紙は任意)を入学願書といっしょに提出しておくこと。

入学後の宿舍について

大学の所在地は新宿と八王子を結ぶ京王電鉄の沿線にあつて通学には不便はない。

新宿駅から特急30分、京王八王子駅から10分の高幡不動駅で下車、通学可能の位置にあるので必ずしも大学附近に下宿の要もないが、寄宿舍については計画中であるから、その間一般の下宿を希望者には本学で斡旋する。

その他参考事項

- ① 本学の校舎は日野市程久保で西には富士の霊峯を仰ぎ、東には多摩川を見おろす高台に(約12万平方メートルの敷地)目下6,650平方メートル(2,200坪)の四階建て本館を建築中3月竣工する。
- ② 京王電鉄高幡不動駅より多摩動物公園までの新線工事が近く完成するので交通の便はますます良くなる。

案内図 = 略 =

- 入学案内及び出願書類を希望の方は10円切手5枚同封の上、下記入学係宛に申し込むこと。

東京都府中市栄町1-1

学校法人明星学苑 TEL= 現在と異なるため略 =

明星大学事務局入学係 TEL= 現在と異なるため略 =

【資料2】

明星大学第1回入学式 学事報告 児玉 三夫

(『体験教育』第265号、1964(昭和39)年5月20日、所収)

学事報告を申し上げます。

大学設立の最初の入学式でございますので、まず、大学設立経過から申し述べることにします。

明星大学の設立母胎である学校法人明星学苑の創立は遠く大正十二年にさかのぼり、昨年で丁度四十周年に相当いたします。

只今、府中市の二万二千坪の校地に幼稚園より小学校・中学校および高等学校に至る基礎教育の機関を全部有し、園児・児童・生徒数四千三百名に及ぶ一大総合学苑であります。

数年前より卒業生、父兄の方々の念願はもとより、学苑の四十年に亘る教育界への貢献と努力に好意を寄せられる方々から、大学設置のすすめなどもあり、又学苑としましても大学学部の構想をはじめ、土地の選定、校舎の設計、資金の調達など鋭意研究を重ね慎重に検討して参りましたが、昨、昭和三十八年五月十七日の法人理事会において正式にこの四十周年の記念事業として、明星大学理工学部の設立が、最終的に決議された次第でございます。なお、その設立の趣旨につきましては、学苑長による大学設立の趣意書を御覧下さいますよう願います。

次にその後の経過を簡単に報告申し上げます。

以上のように明星大学理工学部の設置が決議されて以来、校舎の建設計画については白川設計事務所に依頼する一方、大学用地の最終決定を急いでおりましたが九月中旬、鈴木重信氏、広畑南治氏の御好意により当地、日野市程久保に四万坪を校地として決定、直ちに九月二十三日、株式会社熊谷組との間に鉄筋コンクリート四階建て二、二〇〇坪(完成時まで五、二〇〇坪の予定)の建築工事契約を締結いたしました。

続いて九月三十日、大学設置のための認可申請書を文部省に提出いたしました。以上申し述べましたことのほか、特に大学核心となる理工学部(物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科、土木工学科)の学科内容の構想、および教授陣容の選衡に当っては学苑内外の関係各位の非常な御後援を得ましたことをここに深甚なる感謝の念をもって申し添える次第でございます。

十一月九日大学設置審査のため文部省大学設置審議会の代表委員として渡辺静岡大学学長以下三名の委員が審査に当たられ、現地視察のほか学科内容、教授陣容、機械器具、図書にいたる広汎な審査が行われました。

更に十二月三日には、私立大学審議会の代表として稗方和洋女子大学学長以下二名の委員による現地視察と、特に私立学校経営の内容についての詳細な審査がおこなわれました。

今年に入りまして、一月三十一日、私立大学審議会総会において明星大学設置認可の件が決議され文部大臣に答申されました。

三月七日、大学設置審議会の委員長として、高村慶応大学学長が最終審査のため現地にこられ、その後、続いて三月十一日の文部省大学設置審議会総会において明星大学理工学部設立認可の答申がなされ、去る三月十八日付にて、正式に文部大臣による認可書が交付された次第でございます。

なお文部省で承りますと昨年度大学学部の設立申請が約五十校ございましたなかで当明星大学理工学部は、学部学科規模、ならびに予算規模の上から申し一番大きなものであって、非常な注目を惹いたとのことでございます。

今年に入りましてから例年のない異常降雨などのため、校舎建築がやや遅れている現状でございますが、あとわずか一步と言う段階になっております。

三月十一日認可決定と共に新聞に公表し四月中旬迄一ヶ月間、理工学部学生募集をいたし、全国各地タイ国等から多くの応募者がございましたが厳正かつ慎重な試験をいたしまして二三五名の合格者を得、本日ここに、合格者たる学生諸子、並びに御父兄各位、来賓各位の御臨席の下に、盛大に入学式を挙行いたすことと相成りましたことは、誠に御同慶に堪えない次第でございます関係各位の御尽力にたいし衷心より感謝申し上げます。

以上概略申し述べまして学事報告を終わります。

【資料3】

『履修の手引 昭和39年度ガイダンス説明資料』 明星大学

目次 = 略 =

はしがき

この冊子は新入学生諸君の「一般教育」修学のための案内書として作成されたものである。大学は、諸君が今まで経験したこととは相当違った行き方をもって一人前の人格者として取扱って行くところである。従って個人の行動や学習についてはできるだけ諸君自身の責任と自主性を尊重して行くところである。しかし大学生活が自由な社会と言っても、それは、飽くまでも教育制度の限界の下に行なわれねばならないもので、決して奔放な勝手気儘な無軌道は許されないことを知らねばならない。学生生活の中核とも言えるべき学習生活は、自らの力で計画し、受講にあたっては、自主性のある研究的な学習態度を身につけていかねばならない。この冊子に書かれているだけでは、必ずしもすべてに亘って十分な説明を尽すことは出来ない。大学において行なわれるガイダンスに基いて実際の学習計画を立てる際に、この冊子をできるだけ手引として有効に活用し学生各自の履修方法を発見してほしい。そして、先づ大学入学第1年次を有意義にすごすことを切望して止まない次第である。

第1 理工学部の性格と目的

明星大学理工学部は、一言にして言えば今後の日本の教育の在り方として、その根幹が「道德教育と科学技術教育」にありとする考え方に基いて発足したものである。即ち将来総合大学を構想する明星大学が先づ最初に理工学部を開設したのも実に「科学する心を持った道義心の強い科学技術者」の養成を行って「世界に信頼される日本人」を造り出そうという明星学苑建学の根本精神から出たもので所謂「人づくり」問題が国の方針として叫ばれるようになった所以も亦正に茲にありというべく、本学苑の夙に唱道しているところである。このような理想に立つて創設された理工学部は、大別して言えば理科系と工学系との二つの柱から成り立つ4年制の学部である。この理工学部は日本の新しい今日の大学制度の上から見て学術の研究や職業教育は勿論のこと、これと相俟って人間完成をめざす人間教育という極めて重大な使命を帯びたところの明星大学最初の学部であることを注意せねばならない。

第2 理工学部の組織とその基準

理工学部は、その専門分野は理科系と工科系を主体とする学部であって、大学設置基準に従って、その学科が組

織されている。今、理工学部の一般的基準の一部を示しておこう。

1 課 程

- (1) 一般教育課程については、大学設置基準による。(別項、一般教育履修の項参照)
- (2) 専門課程については、物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科、土木工学科の各学科別に履修する。
- (3) 教職課程については追って開設の場合に詳説する。

2 単 位 (別表参照)

- (1) 一般教育科目については62単位 (外国語、保健体育、基礎教育科目を含む) 以上履修を必要とする。
- (2) 専門教育科目等については80単位以上履修を必要とする。

3 学士号

- (1) 理工学部卒業者に対する学士の種類については、大学設置基準による。(別表 A)
- (2) 学士号に対する最低要求の単位および履修方法 (別表 B)

別表 A

専 門 課 程	学 科	学 士 号
理 科 系	物 理 学 科 化 学 科	理 学 士
工 学 系	機械工学科 電気工学科 土木工学科	工 学 士

学士号に対する最低要求単位および履修方法の基準

別表 B 履修科目および単位数

科 目 \ 学 士 号	理 学 士	工 学 士
一般教育科目	36	36
外国語科目	20	20
保健体育科目	6	6
計	62	62
基礎教育科目	12	12
専門教育科目 必須科目 選択科目	68	68
計	80	80
合 計	142	142

第3 一般教育の在り方

一般教育の目的

戦後の学制改革に伴って従来の大学教育の欠陥が大に反省されると共に、他面日本の民主社会の必要性によって学術の研究や職業の必要と同時に、人間完成を目指す人間教育の重要性が特に強調されるに至ったのである。そして人間教育はあらゆる人間一般に共通する問題を対象とするところから一般教育と名付けられ新しい大学の特質の一つとなったのである。

専門教育は主として原理的基礎的知識能力を陶冶し涵養するもので、これが各職場に於てはその場合に処して役立ち得る知識能力でなければならないものである。又一方社会の諸問題を正しく理解し批判して社会の改善進歩に貢献し得るような人を養成し、且又価値批判や美的能力又は観賞力を有し科学的に判断する能力を修得して、よりよき人生を創造し得る人物となる基礎的実質的能力陶冶を計らねばならない。

そこで一般教育が専門教育と並んで益々重要さを高め、現在の大学では大体に於て人文科学、社会科学、自然科学の三系列の科目の中から均等に選択し考慮されて、その目的達成の為めには教室や実験室内の授業や指導などの方法による教育はもとより、又更にそれを補う課外活動即ち図書館の利用、良書や雑誌、新聞の閲読、運動競技会、音楽会、講演会なども重要な役割を持つ様になっている。

従って一般教育は単なる準備教育としてのものばかりでなく、それ自体としての完結性をもった教育であることを忘れてはならない。しかし又一般教育の学科目は専門教育学科目との関連に於て相關的に緊密さを保つことに於て効果的であり又重要性を持つものである。此の意味で専門的研究に必要な基礎的分野を深く掘り下げてその絶えざる発展を推進する基礎力を培い、且つ学習の能力陶冶の面をも忘れてはならない。

故に大学では教養と職能とが遊離せず、渾然と一体化せる人間を養成して社会に送り出すべき目的と任務とをもっている。しかしこの目的を達成する為めには、人間的素養に富むべき社会人の育成を直接目標とする一般教育と、有能な専門家ないし職業人の育成とを目的とする専門教育とが、遊離対立することなく相互に浸透し合い、縦横に有機的に総合化されて運営されねばならぬ。それには一般教育と専門教育とが相互研究協力し融和向上して之等教育効果を充分に発揮し、国家社会の期待に副うべき卒業生を送り出すことを覚悟すべきである。

第4 一般教育履修の基準 = 略 =

第5 学修案内

1. 履修単位と修業年限及び在学年数

理工学部学生は、入学から卒業までに、142単位(履修単位)を4年間(修業年限)に取得すれば学士号を授与されることは前述の通りであるが、若し、休学その他の事情で余儀なく4年以上の在学をしなければ142単位を取得できない場合でも在学期間は修業年限の2倍の年数を超えることができないことを注意されたい。

2. 一般教養課程の履修の順序

一般教育科目は第2年次までに、外国語科目は第3年次までに、保健体育科目は4学年次にわたって履修し基礎教育科目は第1年次から第2年次までに、専門教育科目は、第2年次以降において履修する建前であるが、多くの科目は順序を追って履修して行くことが全体として学修を効果的ならしめるものであるから、諸君は入学当初の第1年次には主として一般教育科目、外国語科目、保健体育および基礎教育科目を履修し、第2年次から一般教育科目の残りの科目に併行して基礎教育科目・専門教育科目を履修するよう計画を作るがよい。これを表式で示すと次のようになる。

区分 \ 年次	1年次	2年次	3年次	4年次	総括	備 考
一般教育	24	12	0	0	36	数字は単位数を示す。
英 語	4	4	何れか	0	20	
独 語	4	4	4	0	0	
保健体育(講義)	2	0	0	0	2	
同 (実技)	1	1	1	1	4	
基礎科目	4	8	0	0	12	
専門科目	0	12	28	20	68	
				※8		※卒業論文
総 括	39	41	33	29	142	

6. 年次別履修の要綱(詳説)を参照

3. 一般教育科目の履修方法 = 略 =

4. 外国語科目について = 略 =

5. 保健体育科目について = 略 =

6. 年次履修の要項(詳説)

[一年次]

一般教育科目 人文科学系列 哲学・史学・文学・美学のうちから 2科目以上 8単位以上

社会科学系列 法学・政治学・経済学・社会学のうちから

2科目以上 8単位以上

自然科学系列 数学Ⅰ・物理学・化学・生物学のうちから

2科目以上 8単位以上

外国語科目 英語・独語 各4単位

8単位以上

保健体育科目	体育講義 2単位 実技 1単位	3単位
基礎教育科目	数学Ⅱ及び図学から	4単位以上
	計	39単位以上

〔二年次〕

〔三年次〕 = 科目名の記載がないため、略 =

〔四年次〕

第6 スクール・カレンダー

1. 学期と授業時数 = 略 =

2. 授業日程 = 略 =

3. 授業時間割表 = 略 =

4. 授業時間 = 略 =

5. 試験とその心得 = 略 =

第7 39年度開設授業科目表

(後掲「昭和39年度開設科目講義要項」参照)

第8 履修科目の申請手続き

1. 履修科目の申請 = 略 =

2. 履修科目申請の方法 = 略 =

3. 履修科目の申請期間 = 略 =

4. 聴講の場合の手続 = 略 =

5. 履修科目選択の仕方 = 略 =

第9 昭和39年度開設科目講義要項 = 略 =

[解題]

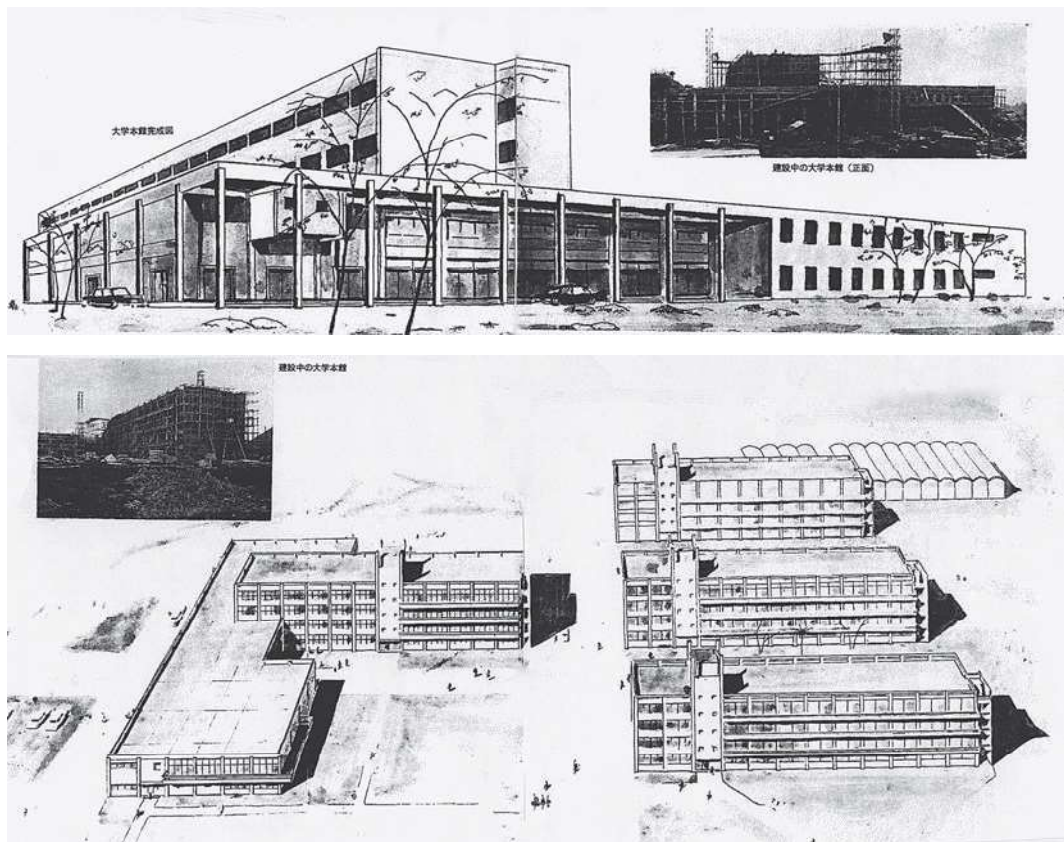
明星大学創設の意図と教育理念(2)

—創設第1年度、1964(昭和39)年度の資料—

解 題

高島 秀樹*

『明星大学 理工学部 =1964=』(「大学案内」・学生募集パンフレット)掲載図版



【上】本館は建築工事中のため、完成予想図は実際に竣工した建築と同じである。

【下】右側2号館以下と推測される建築は完成予想図であって、実際に建築された建物とは異なった形態で示されている。

目次

はじめに

1.掲載資料について

- (1)『明星大学 理工学部=1964=』(「大学案内」・学生募集パンフレット)・昭和39年度開学 明星大学 理工学部推薦入学募集要項
- (2)明星大学第1回入学式学事報告

* 明星大学名誉教授、元人文学部人間社会学科教授・明星教育センター長、教育社会学

(3)『履修の手引 昭和39年度ガイダンス説明資料』

2. 明星大学理工学部創設の意図と教育理念
 おわりに

はじめに

本稿を含む一連の【資料】【解題】「明星大学創設の意図と教育理念」は、1964（昭和39）年に学校法人明星学苑によって創設された明星大学の創設の意図、創設の経緯、創設時に掲げられた教育理念について、明星大学明星教育センターが収蔵する資料によって明らかにすることを目的としている。前稿（1）では創設前の資料を取り上げたが、本稿（2）では創設時の入学者募集・入学者選考、入学式、教育課程についての資料を取り上げた。

1. 掲載資料について

本稿（2）に掲載した資料は次の3種、4点である。

(1)『明星大学 理工学部=1964=』（「大学案内」・学生募集パンフレット）・昭和39年度開学 明星大学 理工学部推薦入学募集要項

1964（昭和39）年3月11日付で大学設置審議会・私立大学審議会による明星大学・理工学部の設置認可答申を得て、3月12日に第1回入学者選考が実施されたが、実際にはそれ以前からこの『大学案内』・『募集要項』が作成・配布され、募集活動が実施されていたと推測される。

【資料1—①】『明星大学 理工学部=1964=』は、学生募集のための大学案内であって、大学を創設する明星学苑の沿革と大学創設の意図、学校法人明星学苑理事長・明星大学学長児玉九十による明星大学理工学部創設の意図、明星大学の特色が記述されている。

児玉九十は「設立にあたって」において、日本が産業立国、特に工業立国をめざし、加工貿易を中心とすべきこと、そのための人材育成が急務であることを明星大学、特に理工学部創設の背景として説明した上で、具体的に、①戦後日本の教育の根幹は「道徳教育と科学技術教育」にあること、明星大学においては②「科学する心を持った道義心の強い技術者」、③「世界に信頼される日本人」の養成をめざすという、これまでの自らの私学教育・教育実践の基礎としてきた年来の教育理念を詳述している。「特色」では、①理想的教育環境、②最新の施設と充実した設備、③誇るべき教授陣容、④一貫した教育方針、⑤産学協同と教育課程上の特色、を掲げているが、ここにも「ヒューマンタッチの教育」という児玉九十の教育理念が含まれている。これらの内容は、前稿（1）で取り上げた「趣意書」の内容と同じであり、一貫した大学創設の基礎となる考え方であると理解される。

【資料1—②】「昭和39年度開学 明星大学 理工学部推薦入学募集要項」は、第1回入学生選考がどのように行われたかを示す資料として、長文・煩雑となったが全文を掲載した。学力試験（筆記試験）を含む一般入試は実施されず、全て「出身高等学校長の推薦書・調査書」と健康診断書、面接による推薦入学試験として実施された。この資料には1964（昭和39）年3月10日が出願期間、3月12日に試験実施、3月13日に合格発表通知書発送と印刷されているが、保存されている原資料の欄外にはゴム印で「出願期間変更のお知らせ ○出願期間は3月25日（水）までに変更する ○面接日は3月12日（木）・22日（日）・26日（木）に随時実施する。」と追記されている¹⁾。第1回入学者選考ということで、できるだけ多くの志願者に機会を与えるとともに、一定数の入学者の確保を意図していたと推測される。

(2) 明星大学第1回入学式学事報告

学校法人明星学苑の月刊広報紙『体験教育』第265号、1964（昭和39）年5月20日、には4月29日に举行された明星大学第1回入学式について、学長児玉九十「明星大学第1回入学式 告示」と副学長児玉三夫「学事報告」の2点が全文掲載されている。

児玉九十「告示」は入学生に対して「殊に諸君は意義深き第一回生として入学されたのでありますからこの大学の学風を打ち立てる責任がございます。」ということ为基础とする入学生に対する訓辞を含むものの、明星大学創設の意図など、これまで本稿(1)(2)で示した諸資料と内容が重複する点があり、紙数の制約もあることから今回は掲載を見送った。児玉三夫「学事報告」は、これまで個別の資料で示してきた1963(昭和38)年の大学創設の発端から創設までの動きを時間の経過を追って明らかにしており、大学創設の経緯を総括的に把握することができる記録として、全文を掲載した。

(3)『履修の手引 昭和39年度ガイダンス説明資料』

本資料『履修の手引』は創設時の明星大学理工学部教育理念、その実現のための教育課程など、教育のあり方を具体的に示す基礎資料として必要な項目を抜粋して掲載した。

「理工学部の性格と目的」においては、明星大学理工学部の教育のあり方として、これまでの資料で示されてきた考え方を繰り返して記述しているが、「学術の研究」「職業教育」「人間完成をめざす人間教育」を使命とするとも記述されており、人間教育を重視する学校法人明星学苑の教育理念が取り入れられていることを示している。

「理工学部の組織とその基準」、「学修案内」においては、教育課程は基本的に当時の大学設置基準に従って編成されていると記述されているが、独自の特徴も認められる。その第1は、外国語科目の充実であって、当時大学設置基準上第2外国語の修得は求められていたが、外国語(2ヶ国語)を1年から3年にわたって10科目20単位必修としている点であり、これは「世界に信頼される日本人」の育成・国際人の育成という教育理念を担保するものであったと考えられる。その第2は、保健体育科目の充実であって、体育実技を1年から4年まで4科目4単位必修としている点であり、これは学校法人明星学苑の校訓「健康・真面目・努力」のうち、健康、特に身体的健康を担保するものであったと考えられる。

「一般教育の在り方」においては、開設1年目は1学年を対象として基礎教育科目1科目4単位以外は一般教育科目のみの開設・履修となることから、説明が大きな比重を占めることは当然とも考えられる。しかし、戦後の教育改革によって生まれた新制大学における一般教育重視の考え方に始まる詳細な説明がなされていること、「社会の改善進歩に貢献し得るような人」の養成、「よりよき人生を創造し得る人物となる基礎的実質的能力陶冶」を図ることが強調されていることは、「人間完成をめざす人間教育」を使命とするという教育理念を具現化するものとして教育課程が編成されており、その中で一般教育が果たすべき役割を示していると理解され、理工学部ではあるが人文科学系列・社会科学系列の充実が図られた。また、一般教育と専門教育の相互研究協力・融和向上によって教育効果を発揮すべきことも記述されており、ここに教育課程上の一つの特色が示されている²⁾。

『履修の手引』の内容を総合して考えるならば、明星大学理工学部の教育理念と、それを具現化するためにどのような教育課程が編成されていたかを理解することができる。

2. 明星大学理工学部の創設の意図と教育理念

明星大学、理工学部創設の意図と教育理念には、2要因が主要な要因として存在していると解題筆者は考えている。

その第1は、大学創設時の時代的・社会的要因である。(1)の解題においても記したように、明星大学が創設された1960年代は総理大臣池田勇人(1960年7月~1964年11月在任)が提唱した「所得倍增論」に象徴される経済成長政策が国を挙げて推進された時代であった。これは、産業立国、特に工業立国をめざし、具体的には加工貿易を中心としようとする政策であり、その実現のための人材養成も政策的に推進された。1960(昭和35)年の「国民所得倍增計画」では「経済政策の一貫としての人的能力の向上」が採り入れられ、1963(昭和38)年の経済審議会人的能力部会答申「経済発展における人的能力開発の課題と対策」は、その具体的なあり方を明らかにした³⁾。また、1960(昭和35)年の科学技術会議答申「十年後を目標とする科学技術振興の総合的基本方策について」では科学技術の振興とともに「人材養成の方策」が提言されている。これよりも早く、児玉九十は1957(昭和32)年に世界教育者会議に出席した後に、児玉三夫とともに欧米の教育事情を視察し、科学技術の発展・産業振興にはそれ

に貢献する人材の養成が不可欠であること、産学協同が重要な意義を持つことを認識し、様々な機会にその見解を公にしている。さらに、児玉九十は文部省(当時、現:文部科学省)の中央教育審議会委員などを務めており、当時の教育に対する時代的・社会的要請についての十分な識見を有していたと考えられる。明星大学、特に理工学部創設の意図と教育理念の第1の要因はこのような時代的・社会的要因であったと考えられる。

その第2は、学校法人明星学苑のそれまでの教育実践、それを通して培われてきた教育理念である。1923(大正12)年の明星実務学校の創設、旧制明星中学校への改組、太平洋戦争後の教育改革に対応して幼稚園・小学校・中学校・高等学校を創設してきた学校法人明星学苑としては大学を創設して特色ある「明星教育の場」を完成することが念願であり、卒業生・保護者からも強く期待されていた。このような基礎の上に創設された明星大学の創設の意図、教育理念の重要な要因として、児玉九十を先頭に40年にわたって展開してきた教育実践のあり方、独自の教育理念を実現すべきことが第2の要因であったと考えられる。それは理工学部であっても単なる科学技術教育にとどまらず、なによりも「人間性の涵養」を重視することに反映されている。【資料1—①】において「人づくり大学」であることを強調しており、具体的には「科学する心を持った道義心の強い技術者」を養成し、それによって「世界に信頼される日本人」の実現を目標とすることが示されている。【資料3】に示されているように、このような目標達成のために教育課程の編成にも一定の配慮が行われているといえる。

おわりに

本稿(1)(2)掲載の資料からは、明星大学、理工学部の創設の意図、創設時の教育理念は当時の時代的、社会的要請に対応するものであったが、その課題に対して学校法人明星学苑が多年にわたって形成してきた教育理念を実現するという独自性に基づいて対応しようとするものであったと考えられることを、本稿までの一応の結論として示しておきたい。

(2021年8月31日・稿)

【注】

- 『明星大学十年史』には「入学試験は推薦方式とし、四月までに三回に分けて行われ、学長以下大学設立準備委員全員の教授で面接試験をした。」と記載されており、一般入試は実施されなかったと理解される(明星大学(1974)『明星大学十年史』,18頁)。なお、この3回以外にも志願者があれば随時入学者選考が実施されたようで、学籍番号は学科ごとに姓のアイウエオ順に付されたが、ある学科では「イ」で始まる姓の学生が学科の末尾の学籍番号を付されていた例があった。
- 現在と異なり当時は大学設置基準の拘束力が強く、示された基準科目数・単位数は確保しなければならなかったが、その上で大学独自に特色とする科目の履修などを加えることは認められていた(【資料1—①】「本学の特色〇産学協同と教育課程上の特色」参照)。一般教育科目中、人文科学系列・社会科学系列の充実が図られたことは『明星大学十年史』(1974)14頁参照。
- 木村元(2015)『学校の戦後史』,93～95頁

【参考文献】

明星大学十年史編集委員会(1974)『明星大学十年史』,明星大学
 武田晴人(2008)『高度成長』(シリーズ日本近現代史⑧),岩波書店
 木村元(2015)『学校の戦後史』,岩波書店

* 本稿作成にあたって参考とした参考文献であっても、前稿に記載した資料は省略した。

【付記】

明星教育センターが収蔵するきわめて多くの資料の中から、一連の本稿に掲載した資料を探索、選択、提供されたのは全て学苑・大学企画局学苑連携推進グループ(元:明星教育センター)長谷川倫子学芸員の尽力による。明記して、感謝の意を表します。

本稿は歴史的研究と考えて全ての人物の敬称を省略したことを、ご了解いただきたい。